

# 2025年12月期（第120期） 業績概要

2026年2月10日  
日東精工株式会社  
(証券コード 東証プライム:5957)



2025年3月  
健康経営銘柄  
3回目の認定

2022年3月  
なでしこ銘柄初  
選定

2025年3月  
第15回「日本でいち  
ばん大切にしたい会  
社」大賞「地方創生  
大臣賞」受賞

# 連結業績ハイライト

NITTOSEIKO

単位：百万円／%	FY2024		FY2025		前期比		業績予想比（2025/11/13）		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	予想金額	増減額	増減率
売上高	47,069	100.0	50,238	100.0	3,168	6.7	50,100	138	0.3
売上総利益	11,240	23.9	12,045	24.0	804	7.2	-	-	-
販売管理費	7,914	16.8	8,613	17.1	699	8.8	-	-	-
営業利益	3,326	7.1	3,431	6.8	105	3.2	3,600	△ 168	△ 4.7
経常利益	3,573	7.6	3,409	6.8	△ 164	△ 4.6	3,700	△ 290	△ 7.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,199	4.7	2,152	4.3	△ 47	△ 2.2	2,300	△ 147	△ 6.4
一株当たり当期純利益（円）	60.18	-	59.34	-	-	-	63.36	-	-

## 決算のポイント

売上高

+6.7%

- ファスナー事業は2Qより加わったインド子会社が業績に貢献。ゲーム機向けに精密ねじが大幅に増加。国内自動車向けもCASE関連におけるADAS（先進運転支援システム）中心に好調。
- 産機事業はエネルギー関連が好調も、世界全体のEV販売減速、米国関税の影響で設備投資が停滞。前年の大型受注の反動もあり減少。
- 制御事業は化学・薬品向け／国内の電池向け分析・計測機器が堅調も、前年の大型受注の反動で減少。

営業利益

+3.2%

- ファスナー事業で調達先の見直しや金型改善などによる製造コスト低減により利益率が改善し増益。
- インドM&A関連費を計上した影響で今期は営業利益率が一時的に低下。

経常利益

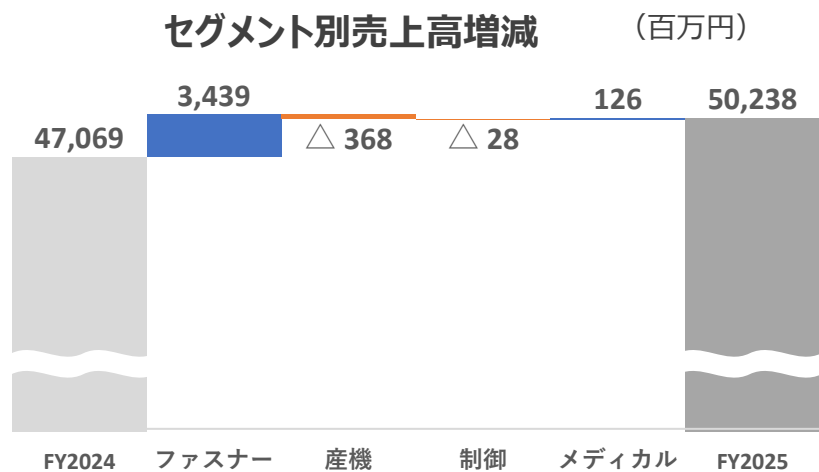
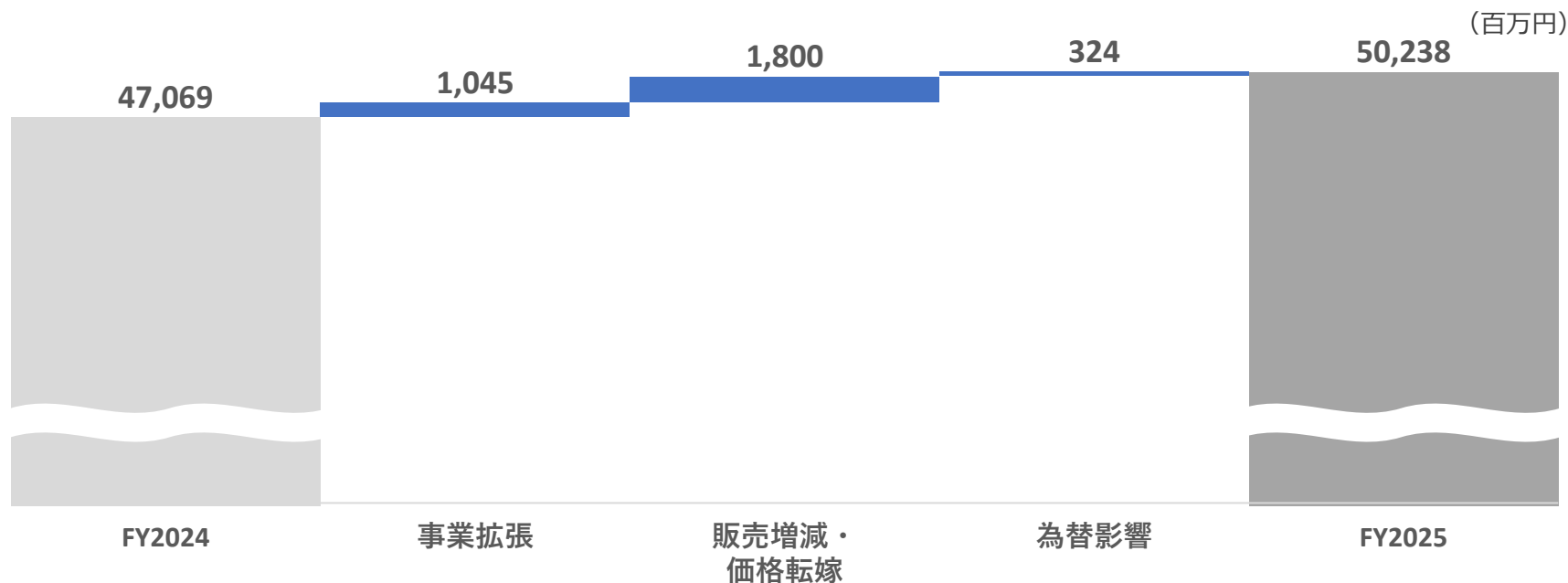
△4.6%

- 当期は円高が進行し為替差損が発生。インドネシア・ルピア安も影響。また、M&Aによる借入金増加や金利上昇に伴う支払利息増加などにより前期比で減益。

# セグメント別売上高・営業利益（連結）

単位：百万円／%		FY2024	FY2025	前期比	
		金額	金額	増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	33,664	37,103	3,439	10.2
	営業利益	1,636	2,271	634	38.8
	利益率	4.9	6.1	-	-
産機事業	売上高	6,642	6,274	△ 368	△ 5.5
	営業利益	1,141	760	△ 381	△ 33.4
	利益率	17.2	12.1	-	-
制御事業	売上高	6,743	6,714	△ 28	△ 0.4
	営業利益	669	503	△ 165	△ 24.7
	利益率	9.9	7.5	-	-
メディカル事業	売上高	19	145	126	638.4
	営業利益	△ 120	△ 103	17	-
	利益率	△ 612.3	△ 71.0	-	-

# 売上高 増減要因



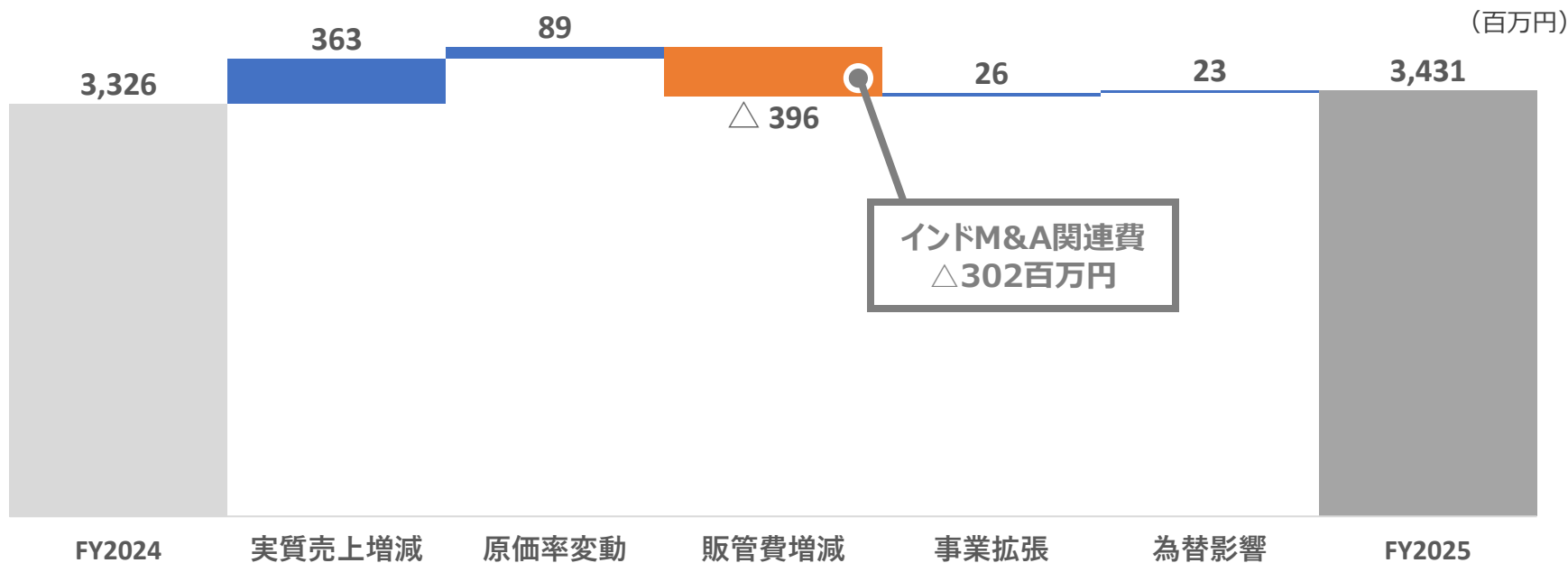
## 事業拡張

2Qより加わったインド子会社が業績に貢献。

## 販売増減

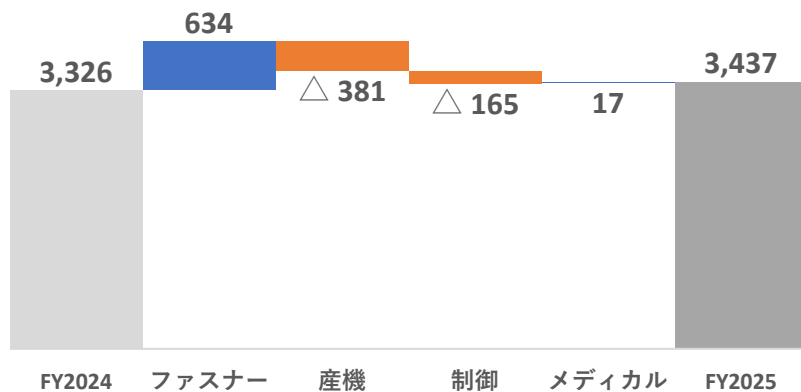
ゲーム機向けに精密ねじの売上が大幅に増加。国内自動車向けのCASE関連ファスナー製品、データセンター向けなど生成AI関連も好調。

# 営業利益 増減要因



インドM&A関連費  
△302百万円

## セグメント別営業利益増減 (百万円)



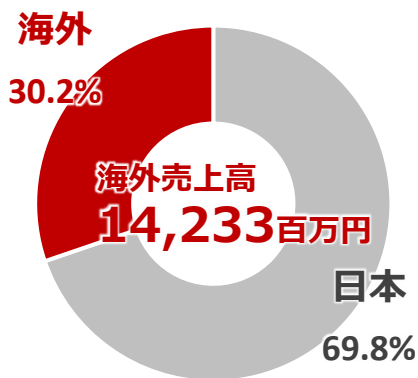
原価率  
変動要因

ファスナー事業で調達先の見直しや金型改善などによる製造コスト低減の効果が表れ原価率が改善。

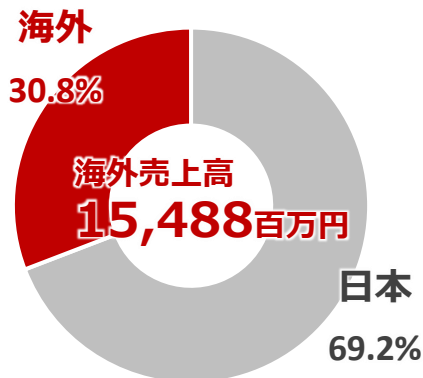
販管費  
変動要因

1QにインドM&A関連費を計上した影響で販管費が大幅に増加。賃上げにより労務費が増加。

2024



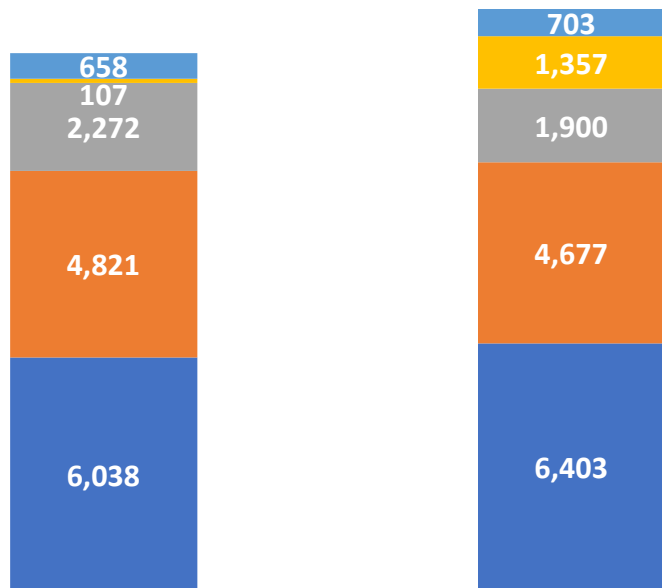
2025



## 2025年の概況

- 前期比で南アジア（インド）と東南アジアが伸長し、海外売上全体は増加。
- インドM&A分を除く海外全体の増加額は約2億円。
- 非日系ユーザーをターゲットに、ねじ締め機の低コスト型アジアモデル製品の拡充や、海外子会社と連携した欧州市場での営業活動強化などを推進中。

(百万円)



2024

2025

■ 東南アジア ■ 東アジア ■ 北米 ■ 南アジア ■ 欧州

欧州

+6.8%

PFAS規制による有機フッ素の分析需要が継続。

南アジア

+1,172.4%

インド子会社化・産機のインド向け拡販で増加。

北米

△16.4%

EV需要減速・関税政策による設備投資停滞で減少。

東アジア

△3.0%

EV需要減速により中国向けのLIB向け水分計、抵抗率計が減少。

東南アジア

+6.0%

マレーシアでOA機器向け・家電向けのファスナー製品が好調。

## 売上高

## 前期比で増収

自動車業界において2Qより加わったインド子会社が業績に貢献。  
ゲーム機向け精密ねじの大幅増、AI関連需要、国内を中心とする自動車のCASE関連需要により増収。

## 営業利益

## 前期比で増益

調達先の見直しや金型改善、工場集約などによる製造コスト低減・利益率向上の改革効果が徐々に表出。  
1QのインドM&A関連費計上の影響はあるものの、国内の自動車向け・ゲーム機向け好調。

単位：百万円/%	FY2024	FY2025	前期比		コメント
	金額	金額	金額	増減率	
<b>売上高</b>	<b>33,664</b>	<b>37,103</b>	<b>3,439</b>	<b>10.2</b>	
自動車	13,259	14,881	1,622	12.2	2Qより加わったインド子会社が業績に貢献。国内中心にADAS（先進運転支援システム）向けのオリジナル品好調。軽量化・薄板化貢献の「JOISTUD」、車載バッテリー向けの異種金属接合「AKROSE」も引き合い活発。
住宅・建築	7,268	7,176	△ 91	△ 1.3	業界の深刻な人材不足・資材高騰による計画遅延などが続く影響で、前期比減。
電機・電子部品	4,831	4,945	114	2.4	市場の鈍化による在庫調整でプレス部品の受注が減少。
雑貨	2,086	3,025	939	45.1	ゲーム機向けの精密ねじが大幅増。今後も継続見込み。
I T・情報機器	1,745	1,860	115	6.6	マレーシアでOA機器向けが増加。中国からの生産移管が進行。
精密機器	1,371	1,703	332	24.3	国内でレンズ等の映像・光学向けが増加。
その他	3,104	3,509	405	13.1	生成AI需要によりデータセンター向けに「CPグリップ」が好調。
<b>営業利益</b>	<b>1,636</b>	<b>2,271</b>	<b>634</b>	<b>38.8</b>	

## 売上高

## 前期比で減収

エネルギー関連では大型省力設備を中心に大幅増の受注を確保したものの、主力の自動車業界では世界全体のEV販売減速、米国関税の影響で設備投資が伸び悩んだ。加えて前年の大型設備受注の反動で減収。

## 営業利益

## 前期比で減益

10月より一部製品の値上げを実施したが、売上高の落ち込み、米国関税政策による原価率上昇などの影響で前期比で減益。

## 新製品情報

2月に単軸自動ねじ締め機の超低推力モデル「FM513VZR」を発売。7月にねじ締め機オプション「コンタミ対策ユニット」と「超高精度ねじ浮き検出機能」追加発売。

単位：百万円／%	FY2024	FY2025	前期比		コメント
	金額	金額	金額	増減率	
<b>売上高</b>	<b>6,642</b>	<b>6,274</b>	△ 368	△ 5.5	
自動車	3,626	3,421	△ 205	△ 5.7	CASE関連製品の増産対応や新設ライン向けのねじ締め機など一定の販売を確保したものの、世界的なEV市場の鈍化、米国の関税強化の影響で設備投資が伸び悩み前期比で減少。海外ではインド向け販売が拡大。
エネルギー関連	218	1,096	877	401.5	電力計の新機種需要により前期比で大幅増加。
電機・電子部品	1,036	658	△ 378	△ 36.5	主要ユーザー先における設備投資抑制の影響を受けて大幅減少。
遊技機	156	130	△ 25	△ 16.0	前期並み。
住宅・建築	186	117	△ 69	△ 37.0	主要ユーザー先における設備投資抑制の影響で前期比で減少。
I T・情報機器	125	58	△ 66	△ 52.7	前年のスマホ関連向け受注の反動で減少。
その他	1,292	791	△ 501	△ 38.8	前年の汎用エンジン用大型設備、工業用ポンプ用設備等の受注の反動で減少。
<b>営業利益</b>	<b>1,141</b>	<b>760</b>	△ 381	△ 33.4	

## 売上高

## 前期比で減収

化学・薬品分野における分析装置、国内での電池向け分析・計測機器、海外向け元素計が好調に推移。

一方、エネルギー分野と自動車分野における前年の大型受注の反動を受け全体では減収。

## 営業利益

## 前期比で減益

前年は高付加価値の分析機器の受注残の解消が進んだことにより一時的に利益率が上がったが、出荷も通常の水準に落ち着き減益。

## 新製品情報

6月に海外向けポータブル型水分計「CA/KF-51」を発売。11月に自動試料燃焼装置「AQF-5000V」縦型炉を発売。

単位：百万円／%	FY2024	FY2025	前期比		コメント
	金額	金額	金額	増減率	
<b>売上高</b>	<b>6,743</b>	<b>6,714</b>	<b>△ 28</b>	<b>△ 0.4</b>	
化学・薬品	1,481	1,565	84	5.7	アジアでの分析装置の販売が堅調に推移。
エネルギー関連	1,213	882	△ 330	△ 27.3	インド・中東での石油精製、石油化学向けの元素計需要拡大も、前年までの受注残解消で減少。
環境	650	721	71	11.0	PFAS規制による有機フッ素の分析需要が継続。
電機・電子部品	335	507	172	51.4	国内における電池向け水分計、抵抗率計がけん引。生成AI需要の高まりでデータセンター向け流量計の受注増加。
住宅・建築	309	428	119	38.8	3Qより地盤調査機「ジオカルテⅣ」の更新需要が増え、前期比で増加。
自動車	727	399	△ 327	△ 45.0	前年の部品検査装置の大型受注の反動で大幅に減少。また、世界的なEV需要の減速により中国向けを中心にLIB向け水分計、抵抗率計が減少。
造船	295	383	88	30.0	造船業界の好調継続により流量計市場も拡大傾向が続く見通し。
その他	1,580	1,648	68	4.4	
<b>営業利益</b>	<b>669</b>	<b>503</b>	<b>△ 165</b>	<b>△ 24.7</b>	

単位：百万円／%	FY2024	FY2025	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	19	145	126	638.4
医療	19	145	126	638.4
その他	—	—	—	—
営業利益	△120	△103	17	—

## 業績

戦略的な市場対応を目的とした製品ポートフォリオの再編に伴い、売上増加。

## 医療用照明器「FREELED」

コロナ禍を境に顧客要望の高いコスト低減を図りつつ、市場ニーズの収集と提案活動を推進するも、本採用には至らず。今後も販社を通じたPR強化にも注力し、本採用を目指す。

## 医療用生体内溶解性高純度マグネシウム

2023年の国内特許取得に続き、2024年7月に米国特許取得。他の主要6ヶ国へ申請済みの特許も順次取得予定。引き続き、早期製品化に向けた取り組みを継続中。また、並行して本素材の適用可能性について情報収集を進める。

## その他

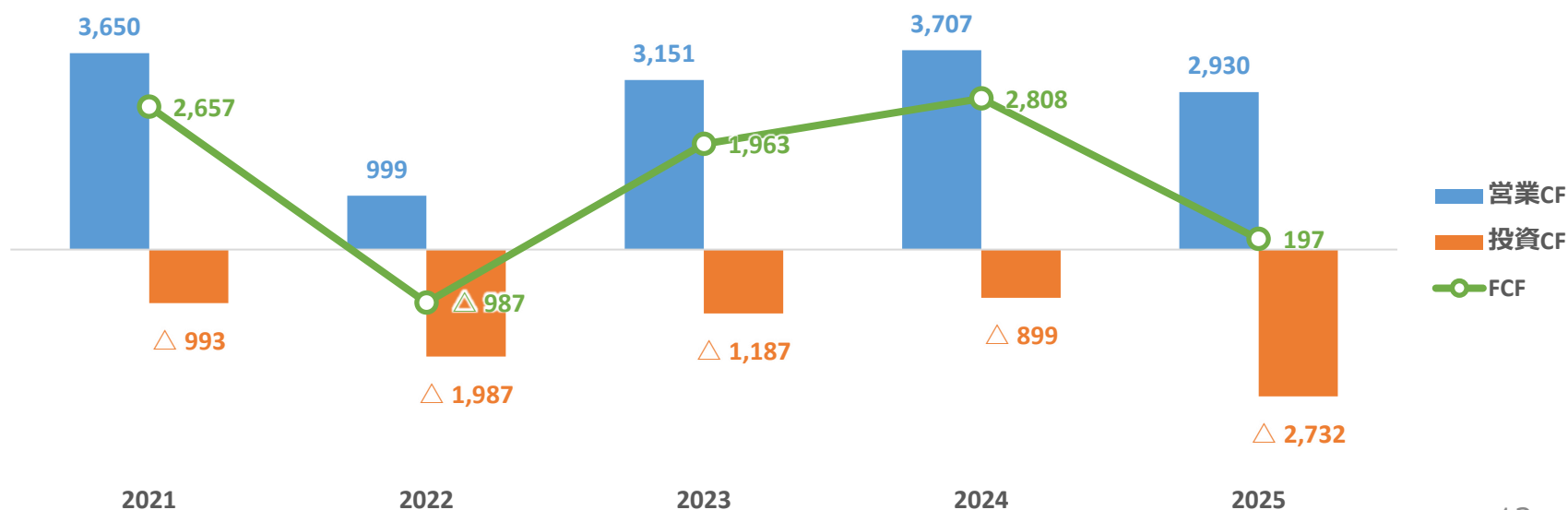
2025年3月には医療機器の品質規格であるISO13485を取得。医療機器開発や製造販売業許可による製造受託案件の獲得に向けた生産体制の構築を進める。

# 連結貸借対照表

単位：百万円／％	FY2024/4Q		FY2025/4Q		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
<b>流動資産合計</b>	<b>36,504</b>	<b>65.7</b>	<b>35,850</b>	<b>62.2</b>	<b>△ 654</b>	<b>△ 1.8</b>
現金及び預金	10,580	19.0	10,493	18.2	△ 86	△ 0.8
売上債権	13,318	24.0	12,477	21.6	△ 840	△ 6.3
棚卸資産	10,992	19.8	11,753	20.4	760	6.9
<b>固定資産合計</b>	<b>19,099</b>	<b>34.3</b>	<b>21,822</b>	<b>37.8</b>	<b>2,723</b>	<b>14.3</b>
有形固定資産	14,003	25.2	15,661	27.2	1,658	11.8
無形固定資産	864	1.6	1,082	1.9	218	25.3
投資その他の資産	4,231	7.6	5,078	8.8	846	20.0
<b>資産合計</b>	<b>55,604</b>	<b>100.0</b>	<b>57,673</b>	<b>100.0</b>	<b>2,068</b>	<b>3.7</b>
<b>流動負債合計</b>	<b>13,200</b>	<b>23.7</b>	<b>11,833</b>	<b>20.5</b>	<b>△ 1,366</b>	<b>△ 10.4</b>
仕入債務	8,835	15.9	7,101	12.3	△ 1,733	△ 19.6
短期借入金	1,325	2.4	1,714	3.0	389	29.4
<b>固定負債合計</b>	<b>3,812</b>	<b>6.9</b>	<b>4,837</b>	<b>8.4</b>	<b>1,024</b>	<b>26.9</b>
長期借入金	235	0.4	962	1.7	727	309.0
<b>負債合計</b>	<b>17,012</b>	<b>30.6</b>	<b>16,670</b>	<b>28.9</b>	<b>△ 342</b>	<b>△ 2.0</b>
資本金	3,522	6.3	3,522	6.1	－	－
資本・利益剰余金	30,793	55.4	32,208	55.8	1,415	4.6
自己株式	△ 1,778	△ 3.1	△ 1,746	△ 2.9	31	－
<b>純資産合計</b>	<b>38,591</b>	<b>69.4</b>	<b>41,002</b>	<b>71.1</b>	<b>2,410</b>	<b>6.2</b>

# 連結キャッシュフロー計算書

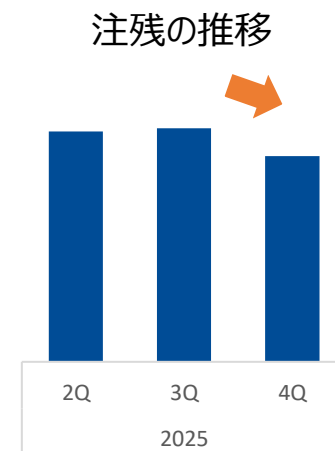
単位：百万円／%	FY2024	FY2025		
	金額	金額	増減額	増減率
営業活動によるCF ※①	3,707	2,930	△ 777	△ 21.0
投資活動によるCF ※②	△ 899	△ 2,732	△ 1,833	-
(フリーCF) ※①+②	2,808	197	△ 2,611	△ 93.0
財務活動によるCF	△ 1,426	△ 423	1,003	-
現金及び現金同等物の増減額	1,577	△ 174	△ 1,752	-
現金及び現金同等物の期首残高	8,027	9,604	1,577	19.7
現金及び現金同等物の期末残高	9,604	9,430	△ 174	△ 1.8



## 2. 2026年12月期(第121期)業績予想

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しと異なることがあります。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要 動向、為替、株式市場の動向等があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

単位：百万円／％	FY2025		FY2026（予想）		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	50,238	100.0	52,000	100.0	1,761	3.5
営業利益	3,431	6.8	3,800	7.3	368	10.7
経常利益	3,409	6.8	3,800	7.3	390	11.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,152	4.3	2,300	4.4	147	6.9
一株当たり当期純利益（円）	59.34	-	63.41	-	-	-



## 予想のポイント

ファスナー	生成AIの需要増加に伴うデータセンター向け及びゲーム機向けが堅調に推移する見通し。インド市場の成長を取り込みつつ、海外子会社と連携して欧州市場を拡充する。CASE関連の高機能・高付加価値製品の継続受注により収益力を一段と強化。事業・製品ポートフォリオを早期に見直し、材料の見直し等で原価低減を進め、利益率を高水準で維持する。
産機	自動車市場の不透明感は続くが、ADAS関連の標準装備拡大により継続受注を見込む。海外販売を戦略的に強化し、インド向けは例年を大きく上回る伸びを示す。米国向けは底打ち感へ転じつつある。新市場としてデータセンター向け受注が増加傾向。
制御	製薬会社向け大型システム製品の売上を見込む。国内でPFOS・PFOA規制が4月に決定することから分析装置の需要増が期待される。インド・中東での石油関連向けに元素計・自動試料燃焼装置の需要が拡大。有機溶剤リサイクル装置はデモ機製作を経て2026年発売を予定。
メディカル	市場対応を前提とした製品ポートフォリオ再編で継続的に売上を確保。

# セグメント別市場動向と取り組み状況

事業	主な市場動向		取り組み状況・今後の取り組み	注残の推移
ファスナー	自動車	EV販売減速の影響はあるが、CASE関連におけるADAS向けを中心とした製品の需要増加。電動化でバッテリー・インバーター等向け市場の拡大は継続。車両の軽量化、薄板化ニーズ継続。	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅・建築分野でグループ間の相互顧客への同行営業による新たな需要獲得を推進中</li> <li>海外子会社と連携し欧州市場を中心に非日系企業への営業活動強化</li> <li>工場再編による工場間輸送の削減、調達先の見直しなどの製造コスト低減・利益率改善</li> </ul>	
	住宅・建築	業界の深刻な人材不足・資材高騰による計画遅延が継続する見込み。		
	雑貨	ゲーム機向けの受注が継続する見込み。		
産機	自動車	米国関税政策やEV車向け設備投資延期に伴い各社で様子見の状況。国内も販売台数減少の影響はあるが、標準装備が進むADAS関連は継続の予想。	<ul style="list-style-type: none"> <li>非日系ユーザーをターゲットに低コスト型アジアモデル製品拡充</li> <li>インド市場拡販の強化</li> <li>新製品の超低推力モデル「FM513VZR」のPR</li> <li>ねじ締め機の新オプション「コンタミユニット」と「超高精度ねじ浮き検出機能」をPR</li> </ul>	
	電機・電子	主要ユーザー先における設備投資の抑制が続く見通し。		
	エネルギー関連	製品更新に伴い各社で設備投資が進む見通し。		
制御	化学・薬品	LIB向けは中国を含む一部地域で需要が減速も、国内など次世代電池材料向け需要は継続の見込み。	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧州においてPFASのスクリーニング分析で製品の安定性・耐久性テストをユーザーと実施、その後セミナー開催するなどシェア拡大に向けた活動を展開</li> <li>有機溶剤リサイクル装置は、デモ機製作を経て2026年の発売を予定</li> </ul>	
	エネルギー関連	インド・中東での石油精製、石油化学向けに元素計、自動試料燃焼装置の需要が拡大中。国内ではSAFなど代替燃料向けの元素計需要拡大の見通し。		
	環境	国内で2026年4月からPFOS・PFOAの規制が決定し需要増に期待。2025年4月に公定法に採用された小型蒸留装置の販売も増加傾向。		
メディカル	開発計画	2024年7月の米国を皮切りに「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」の海外特許を順次取得予定。同材料の早期製品化に向けて準備を進めると同時に、様々な医療機器領域への適用拡大について探求を進める。当社既存技術を活かした新たな医療機器の製造受託案件の獲得に向けた体制も構築中。		

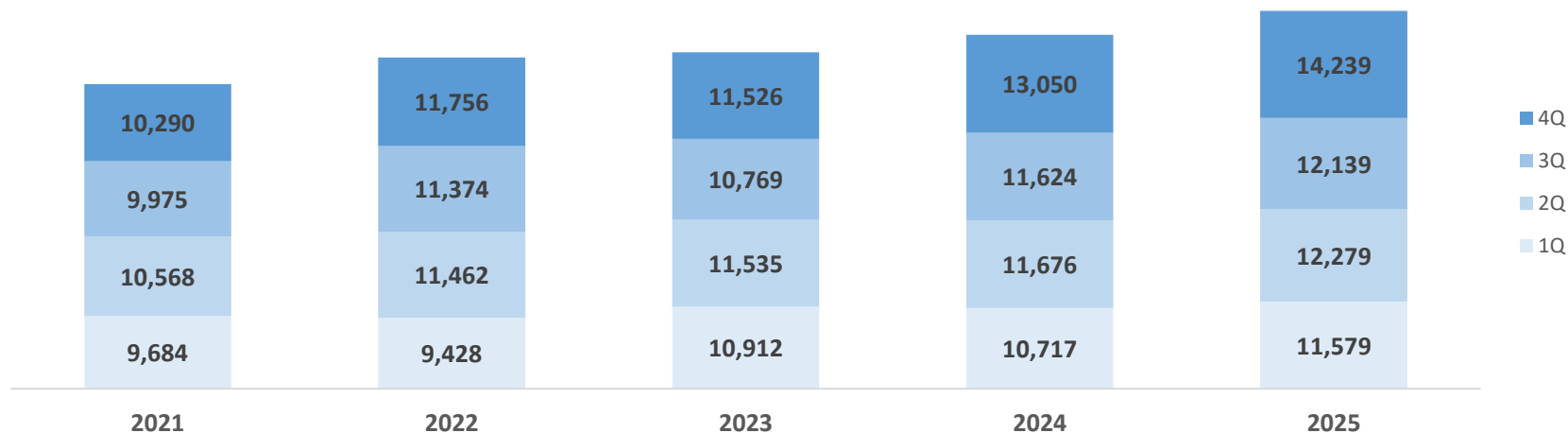
## **3. 参考資料**

---

# 四半期ごとの業績推移

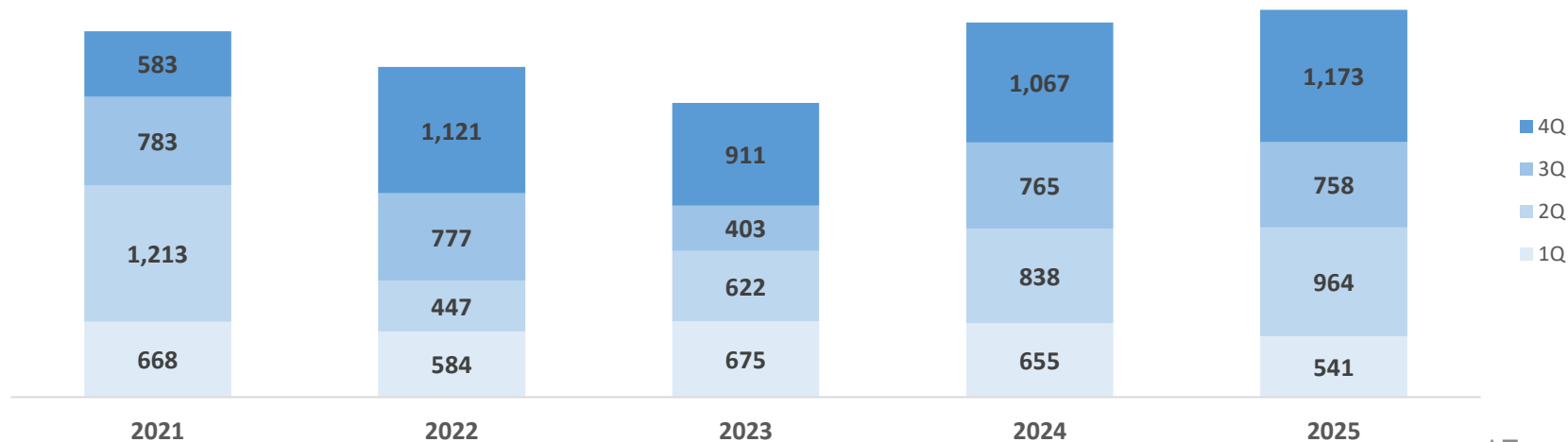
## 売上高

(百万円)



## 営業利益

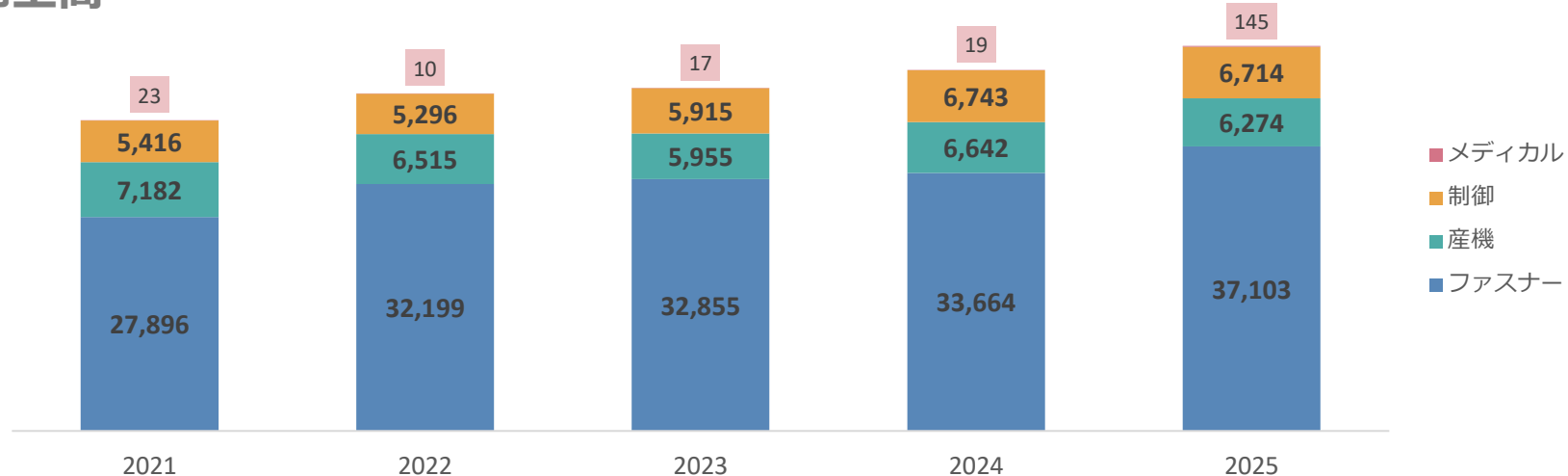
(百万円)



# セグメント別業績の同期比較

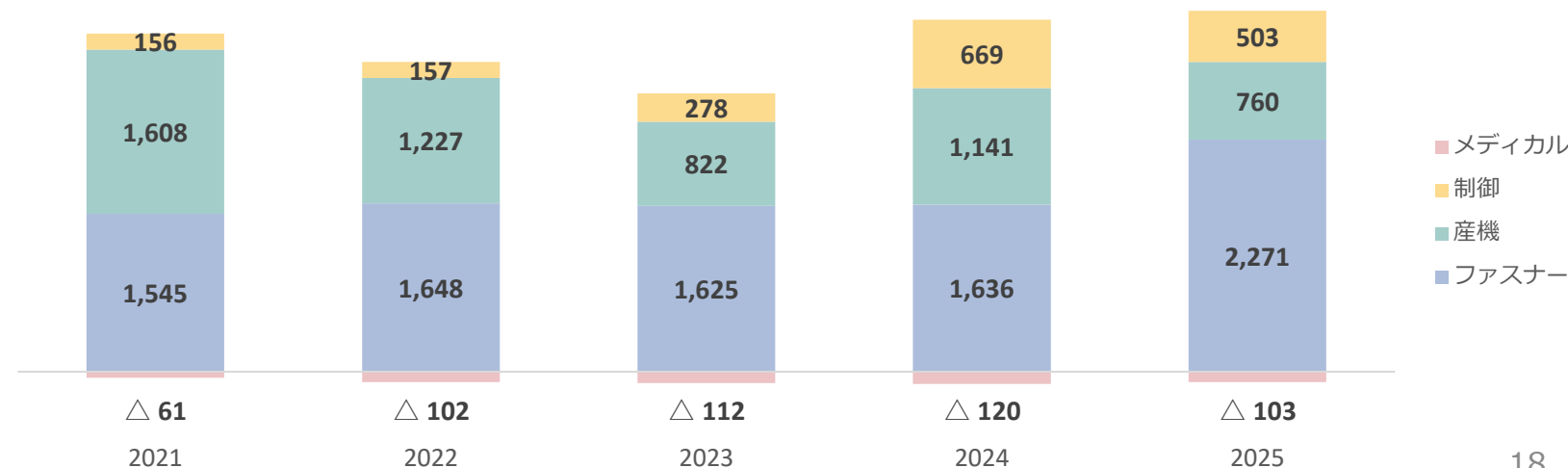
## 売上高

(百万円)



## 営業利益

(百万円)



# ***NITTOSEIKO***

**IR お問い合わせ窓口**

日東精工株式会社  
経営戦略本部 経営企画室  
電話：0773-42-3739  
E-mail：[ir@nittoseiko.com](mailto:ir@nittoseiko.com)